



1.管理部での仕事風景。後輩からの質問に、丁寧かつ適切にアドバイスする先輩社員 2.工場にいる松浦さんへ出荷に必要な製品看板を渡す女性社員。業務では他部署との関わりも多い 3.ダンボールのシートを作る貼合の工程。専用の機械にダンボールの原紙をセット 4.印刷用の版を管理する部署。顧客のオーダーに合わせて、それぞれに異なる印刷用の版を用意している。自社で手作りすることで、さまざまなトラブルにも迅速に対応

松浦さんが思う会社の3つの魅力



挑戦できる職場環境

ダンボールの多彩な可能性を秘めた特許取得商品「エコボード/バレット」を手がける同社。だからこそ、顧客の視点やニーズを重視した、新たな発想やアイデアを取り入れた提案が可能に



効率的な生産体制でオフも充実

同社では最新クラスの設備を積極的に導入。生産性が上がったことで、残業時間の削減や有給休暇の取得につながっている。そのおかげで、プライベートの時間がより充実してきたそう



風通しのよい社風

職場は部署や世代の垣根を越えて社員同士の仲がよく、和気あいあいとした雰囲気。忘年会や新年会など親睦を深める社内イベントも多い。写真は昨年初参加したマラソン大会のときの様子



だいぜん
大善株式会社

岡山市北区撫川1513
☎086-293-5111

[公式HP]



Pickup! NEWS



会社説明会も続々開催。2月27日(木)12時30分～16時は「オカジョブ就活フェア」(岡山コンベンションセンター)、3月3日(月)13時～17時は「岡山県合同企業説明会」(ジップアリーナ岡山)、4日(火)13時45分～15時20分はオンラインにて実施。詳細はHPで確認を。



「物流の現場を支えるものづくりに、仲間と協力して取り組んでいます。」

お互いに助け合える環境で、切磋琢磨しながらスキルアップ。

——ダンボール製品の専門メーカーとして、60年以上の歴史と実績を持つ「大善」に、入社を決めた理由を教えてください。

松浦 私はものづくりが好きで、自分の好きなことを仕事にしたいと考えていました。職場見学の際に感じた、自分に合った仕事内容であること先輩社員の印象がよかったことが入社決め手になりました。

野島 私は企業研究をしているときに、ダンボールはどのように作られているのかと、純粹に興味がありました。物流には関係ないものですが、景気の影響を受けにくい安定した業界であることから選びました。

——お2人が所属する製造3課では、どのような業務を担当していますか？

松浦 製造3課では、ダンボールのシートを機械に供給して、印刷から溝切り、のり貼り、結束までの工程をほぼ自動で行い、

製品に仕上げる「製函」の業務を行っています。作業中は機械トラブルがつきものなのですが、やっていくうちに少しずつ慣れて対処できるようになるとうれいすね。わからないことがあれば、自分なりに考えてから先輩方に聞くようにすると、仕事の理解が早くなって自信にもつながります。

野島 私も同じような業務に携わっているのですが、その中で心がけているのは、お客さまによりよい製品を届けられるようにミスなく製造することです。クレームにつながる見落としをしないように、仲間と助け合いながら厳しくチェックしています。

——今後の目標を聞かせてください。

松浦 今は機械の操作が主な業務ですが、いずれは機械の修理や細かなメンテナンスができるようになりたいと思っています。

野島 私もまだ先輩方に頼っているところがあるので、ひとりですべてで対処できるようになれたらいい。今年は新工場が稼働予定なので、私たち社員が連携を密にし、お互いに高め合いながら、お客さまに必要とされる製品を作っていきたいです。

Profile

松浦さん(左)

MATSUURA
岡山県内の高校を卒業後は、「ものづくりに関わる仕事がしたい」との思いから、2020年に入社。現在は製造工場の機械オペレーターとして活躍中。休日には旅行やドライブに出かけてリフレッシュしているのだとか。

野島さん(右)

NOJIMA
県外の大学を卒業後、地元・岡山で就職したかったことと製造業に興味があったことから、2020年に入社。製造工場の製函機のリーダーとして、周囲に目を配りながら業務に打ち込む。休日はのんびりと家で過ごすそう。

大善株式会社

〈事業内容〉
各種ダンボール・パッキングケースの企画・開発・製造・販売